

10 回刊行の巻頭言

藤田 康雄(Yasuo Fujita)

大阪経済法科大学・元講師、資格取得数 230 点(世界記録ギネスブック 1995 年版)

特定非営利活動法人・洞窟環境NET学会は、2010 年以来、洞窟・環境・神社の由来などについての研究成果を、この紀要において発表してきており、今回は記念すべき第 10 回目に当たります。私は、学会発足当時、大阪経済法科大学の講師をしていた関係で、当時、同大学の学生部長をされていた沢勲工学博士との縁でお誘いが有り、入会させて頂きました。

洞窟は、文明発達以前から人間と馴染が深く、死後における世界や異世界の入り口に喩えられる例もあります。古代神話における、“イザナギ”が、女陰に大火傷を負い死亡した“イザナミ”に会いたい気持ちを抑えきれずに向かった“黄泉の国”も洞窟です(古事記)。洞窟をめぐるこうした伝承・逸話は、日本だけでなく世界各地に残っており、人々のロマンをかきたててきました。

これまでの学会紀要で、最も多く取り上げられていたのは、「神社の由来に関するもの」であります。神社は、日本固有の神道信仰に基づく祭祀の施設でもあり、産土神、皇室や有力氏族の祖神などの霊を神として祀っています。文科省の資料によると、全国には8万5千もの神社がある、とされています。私自身、専門(技術系)分野の他に、北東アジアの歴史、とくに古代から近代(江戸時代末期まで)までの歴史に大変興味を持っており、自分なりに永年学習してきました。その知識を生かすことで、いくらかでも本紀要発行に貢献できれば、と思っております。

学会会長(創設者)の沢先生は、洞窟についての知識を一般の人でも、わかりやすく知る事の出来る「さわ洞窟ハウス(洞窟情報サロン)」を自宅の一部を改装して作り、洞窟関係の写真や立体的な模型、珍しい石などを展示。地域の住民や学生らに無料で開放して、洞窟への興味を持ってもらおうと努力されておられます。頭の下がる思いであります。

沢先生のような社会貢献をはじめ、多数の学会員が洞窟、神社に関する精緻でしかもユニークな研究成果を発表してこられた本紀要の発刊に当たり、理事の一人として参加させて頂いているこの学会活動が、よりよい社会の実現に寄与出来る事を願い、巻頭の言葉とさせていただきます。

なお、この紀要 10 号には、以下の各論文が掲載されております。万葉集と洞窟そのⅧ 名峰・立山「開山の聖地、玉殿窟」 /米国、ハワイ島の南東斜面、キラウエア火山の台地写真と溶岩分析 /溶岩洞窟の形成プロセスのモデルについて(英文) /沖縄県、国頭郡金武町の金武宮・金武観音寺の由来とその洞窟景観 /沖縄県、宜野湾市の普天満宮・神宮寺の由来とその洞窟景観 /大阪市住吉区、神功皇后、摂津国一宮、住吉大社の由来と文化 /大阪府、和泉国一之宮、第 14 代仲哀天皇の父、大鳥大社の由来と文化 /和歌山県、紀伊国一之宮、日前宮、日前神宮・國懸神宮の由来と文化 /和歌山県、紀伊国一之宮、木の国神話の社、伊弉曾神社の由来と文化 /和歌山県、紀伊国一之宮、初代神武天皇の長兄、竈山神社の由来と文化 /和歌山市、人形・針供養・婦人病、淡嶋神社の由来と文化 /京都府乙訓郡大山崎町、離宮八幡宮の由来と文化Ⅱ /滋賀県高島市、第 11 代垂仁天皇(前 29-70)、猿田彦命、白鬚神社の由来と文化 /大阪府藤井寺市、菅原道真公、道明寺天満宮の由来と文化 /大阪市北区、蛭子大神、欽明天皇、堀川戎神社の由来と文化。



2018 年度総会の記念写真

洞窟環境 NET 学会(2009-2018 年度間)の活動統計												
項 目	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2009～ 2017年	08迄実績
1. テレビ・ラジオ出演	40	81	71	21	9	4	7	19	4	2	258	58
2. 新聞等記事	26	24	57	22	16	18	10	8	23	10	214	327
3. 展示会	11	10	13	3	1	1	2	5	4	2	52	15
4. 講演	26	11	17	31	18	7	13	25	31	20	199	157
5. 論文と資料	34	48	52	33	16	24	21	27	19	16	290	249
6. フィールドワーク	16	8	27	21	23	37	23	57	53	51	316	221
(2009～2018年)	153	182	237	131	83	91	76	141	134	101	1094	1027

洞窟環境 NET 学会 10 年間の功労者には感謝状



小山 博夫婦

由良 薫夫婦

古谷昭雄夫婦

沢 勲夫婦